

パナソニック株式会社
代表取締役社長 大坪文雄 様

障がい者向け会話装置の早期の継続を求めて

会話補助装置「レッツ・チャット」存続を求める要求署名

御社のベンチャー会社「ファンコム株式会社」が本年6月に突然解散となり、それまで販売しておられた「レッツ・チャット」をはじめとする福祉機器は在庫限りと案内されておりますが、私たち利用者とその家族をはじめ多くの方が突然の案内に驚きと戸惑っております。先日、ファンコムの松尾社長へお電話をさせて頂き状況を伺いましたが、「まだお話できることはありません。すみません。」との回答しか頂けず、不安がさらに高まっています。

レッツ・チャットしか使えない障がい者がいます

脳性麻痺、脳幹出血などの障がい者や、ALS、SMA等の難病患者にとっては、コミュニケーション手段の確保は命の次に大切なものです。本人が言いたいことを伝えられないと、家族や支援者は何も対応できません。レッツ・チャットはパソコンを使っていないからこそ、障がい児から寝たきりの難病の人たちも簡単に使えるようになった、画期的な会話補助装置です。今では、利用者にとって他には代替手段が無い必需品です。これまで家族、友だち、先生、病院の人と同じ空間にいても、意思疎通のできない辛さから解放してくれたのがレッツ・チャットでした。利用者の「ありがとう」の一言に凝縮された想いは計り知れないものです。利益にはならないのかもしれませんが、製品の継続を強く要望します。

福祉機器は開発側の支援体制が必要です

ファンコムが解散となり、これからの支援体制はどうなるのでしょうか？ファンコムはデモ機の使い方や入力スイッチの相談まで、電話でもできる限りの情報を提供して下さいました。販売業者では理解しきれないほどのノウハウをもっておられたからこそ、他社の製品では使えなかったという人にも、レッツ・チャットは安心して紹介できました。パナソニックの中で次のレッツ・チャットを作られた際も、同様の支援体制を取って頂けるよう、重ねて要望致します。

ファンコムの活動とそこから生み出されたレッツ・チャットはこれまでコミュニケーションの手段を確保できなかった多くの障がい者に明るい光をもたらした機器でした。そしてそれを支援したパナソニックに感謝し、私たちは改めてパナソニックのファンとなったのです。この製品は決して利益の出るものではないかもしれませんが、だからこそ、パナソニックのような大きな企業が取り組むにふさわしい事業ではないでしょうか。どうか、レッツ・チャットの存続と支援体制の維持をお願い申し上げます。

名 前	住 所

署名代表 池原恵子、池原久豊
〒631-0845 奈良県奈良市宝来1-2-3

